



### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

「サステナビリティレポート 2024」からエスベックの競争優位性の持続性があると評価するのは難しいと考える。

近年、地球温暖化や経済の不確実性、生成 AI の急速な普及、デジタル化の進展などによって私たちを取り巻く環境は大きく変化しており、これに伴い先端技術の開発が活発化している。環境試験機はこの開発に不可欠であるため、エスベックにおいても安定した製造・販売が可能であると読み取れる。また、中期経営計画「プログレッシブ プラン 2025」においても「個と職場の慣性と惰性を打破し、先端技術の実用化に貢献する」ことを基本方針とし、中期経営目標では 2025 年度に目標とする売上高・営業利益・営業利益率・ROE を、中期経営戦略では 4 つの事業計画と 3 つの ESG 関連の計画を掲げている。このことからエスベックが競争優位性を持続させるための取り組みを進めていることは読み取れる。しかしながら、「サステナビリティレポート 2024」では中期経営戦略の 7 つの計画について具体的な今後の事業内容や実現可能な利益の金額の記載がなく、競争優位性に持続性はやや不透明であると判断した。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私はエスベックで人的資本の価値向上を達成できると考える。

エスベックは、サステナビリティにおける重要課題の一つとして「多様な人材の確保・育成」を特定しており、「企業文化の良質化／組織マネジメント」「個の成長支援」「経営戦略と連動した人材育成」「ダイバーシティ&インクルージョンおよび社員の健康と安全の確保」といった観点から、積極的に人材育成に取り組んでいる。海外研修制度やエグゼクティブ制度などのスキルを高めることのできる制度がある点や、上司と部下の間で活発なコミュニケーションが行われている点、フレックスタイム制度や在宅勤務制度などの制度が整えられている点から、エスベックでは働きがいや個人にあった働き方を実現できる環境が整っていると評価することができる。

### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

エスベックが企業理念に基づいてどのように企業価値を創造しているのか、ステークホルダーとどのようなことを果たしていくのかを図や表、グラフを多数組み込み、視覚的に非常にわかりやすく示されており、理解しやすかった。

しかしながら、前述のとおり、エスベックの競争優位性の持続性については、中期経営戦略を詳しく記載していないために、やや不透明であると感じた。一方、決算説明資料に含まれる中期経営計画の説明資料では、これらの中期経営戦略について詳細に示されており、その内容からはエスベックの競争優位性の持続性の不透明さを補うことができると推測する。そのため、サステナビリティレポートにおいても中期経営戦略を詳しく記載し、競争優位性の持続性に対する理解を深められるようになると考えられる。

<参考>

- ・サステナビリティレポート 2024 [espec.co.jp/sustainability/pdf/report2024.pdf](https://espec.co.jp/sustainability/pdf/report2024.pdf)
- ・2024 年度中期経営計画 [presentation2024\\_02.pdf](#)